

香教組第100回定期大会開催

香教組を強く大きくし、さらなる要求の実現を!

香川教育

発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ

http://kakyoso.com/

三豊・観音寺支部



○講師の教員採用選考試験を職免で

県教委が「市町で決めること」と言ったことを受け、三豊市教委と交渉した。教育長は「県がOKなら三豊市はOK」と回答をもらった。2月、三豊・観音寺の教育をよくする会（以下、よくする会）の要請行動の際、三豊市教育長からは、「講師の採用選考試験は職免でという方向で考えている。県教委からの連絡待ち」という回答を得ている。予算もかからない、誰も損をする人はいないので早急に実現するよう重ねて要求した。三豊・観音寺市では次年度には実現しそうだ。

○必要な情報は行政に直接聞く

教員の長時間勤務について調査結果を公表するように求めた。観音寺市教委は、2022年12月は時間外勤務45時間以内が56%、2023年度12月は70%と回答。教員未配置については、5月と12月に聞いた。未配置はないと回答を得ている。

○学校統廃合について

よくする会と三豊・観音寺学校統廃合を考える会共催で和光大学山本由美

2月23日、サンメッセ香川で香教組第100回定期大会が行われました。2023年度の活動報告と2024年度の活動方針が話し合われ決定されました。社会の変化とともに教育環境が大きく揺れ動いています。部活動問題を含む教職員の働き方改革も進まないままです。いまこそ、香教組に結集し、子ども・教職員、どちらにとってもよい教育条件の整備のために声をあげようと大会を終えました。

教授を招いて学習会を行った。地域を回り、詳細な資料を基に三豊市の統廃合は必要ないと明言された。「学校統廃合の基準」が示されているが、統廃合を進めていくために示されているもので、教育的な側面からは全く根拠のないものだということだ。

両団体はその後交渉を続け、「地域住民や教職員の意見を聞くこと」を要請した。すると、唐突にブリックコメント（以下、パブコメ）やアンケートを実施。集計結果が公表されていない中、四国新聞に学校統廃合の具体案が掲載された。水面下では着々と進められており、計画中の建設地は湿地帯でもあり、防災面でも懸念がある。

観音寺市は、一度、学校統廃合計画があつたが、住民運動で中止になった。市長が交代したので確認した。「今のところないが、考えている。」と回答したので、パブコメに意見を出した。HPに掲載されているものを確認すると、すべてが反対だ。



○署名活動について
教育署名、目標の1600筆を達成した。

秘訣① 諸団体（三豊市職労・観音寺市職労香教組など）とのつながりを大切にしたい。直接、お願いに行くことが

ポイント。秘訣② 分会訪問 現役組合員とOBで回った。秘訣③ OBとのつながりを大切にする。これらのことで、署名を集めにくくなっている現状でも多くの賛同を得て、目標が達成できたと思う。



○分会で行う校長交渉や市教委交渉の成果

三豊市の中学校で必要ない外部接続のSDカードやUSBメモリの使用時の管理職の承諾について、土日の使用は事後承諾で良くなった。兼務している初任者が各学校ごとの定期テスト問題作成について、テスト問題を回収することで同一のものを使用可となり、負担軽減となった。分会に組合員が増え、校長交渉や共済カフェができた。教職員の健康を守ることに、校長に申し入れをすることができた。



「転職の魔王」

というドラマがありました。転職エージェンツという仕事があることを初めて知りまし

た▼その中で、社長がこんなことを言います。「人は、自分で決断したことを正解にするために、それからの人生を生きていくのだと思う」▼一方で、決断できない大人が増えてきています。そういう人が、管理職になると部下は混乱します。また、新しい企画を提案しても潰されてしまつと、民間企業に勤める友人が話してくれました▼さて、学校現場はどうでしょうか。悲しいかな、残念な管理職が増えていると組合本部に相談が絶えません▼ベテランは、若年層との価値観の違いを嘆きます。自分にもそんな時代があつたことを忘れていません▼若年層は、悩んでいることを職場の同僚に相談せずに、離職を決断します▼人生は、決断の連続です。その時はわかりませんが、その決断が、正解かどうかは、その時はわかりません。ただ、その決断が殺伐とした中で決断ではなく、温かい雰囲気の中で未来につながる決断であつて欲しいと思います▼人事異動の時期が来ました。すでに、2023年度末にも、若年層の離職の話が耳に入ってきています。また、早期退職の話も▼その方たちが、人生の次のステージにつながる決断であることを祈るばかりです▼さて、10年に渡って執筆してきた香川教育の執筆者が4月号より変わります。「楽しみにしている」という声が執筆の励みでした。ありがとうございました。

人生の正解

